

【科目名】言語聴覚学演習Ⅱ（専門）		【担当教員】前新、入山、伊林、倉智、大平、佐藤、藤間、阿志賀、高橋圭 (窓口：高橋圭三) 研究室 E 棟 2 階 (メールアドレス)takahashik@nur.ac.jp (オフィスアワー)月～水 5 限							
【授業区分】専門分野（特論）	【授業コード】 5-33-1260-0-2								
【開講時期】4 年次 通年	【選択必修】選択								
【単位数】2	【コマ数】15								
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 言語聴覚士国家試験に出題される専門科目を中心に、コマ不同です。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 設定コマ数が少ないですが、足りない分は補講をいたします。補講もすべて受講し、役立てること。									
【講義概要】 (目的) これまでの大学生活で学んだそれぞれの科目から、特に専門の内容を体系的に理解し、専門職業人として知識を結び付ける。言語聴覚士として専門分野における広い知識を養う。 (方法) 学生個々の履修度や科目別にグループ分けし、少人数で学ぶことにより学習意欲を高める。加えて、学習効率を上げる。									
【一般教育目標(GIO)】 今まで学んで来た、専門科目の総括として復習を行う。 【行動目標(SBO)】 専門科目について知識を深める。国家試験過去問題の 80%以上の理解（解説）ができる。そのため、過去問題は 90%以上正答、オリジナル問題は 60%以上正答できる。									
【教科書・リザーブドブック】 ・廣瀬肇監修，岩田誠ら編集『言語聴覚士テキスト第 2 版』医歯薬出版株式会社，2012 年。¥4,000+税 ・科目ごとの教科書 ・医学辞書（種類は問わない）									
【参考書】 医療研修推進財団監修『言語聴覚士 国家試験出題基準平成 25 年 4 月版』医歯薬出版株式会社，2013 年。¥2,200+税									
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定の G P A 制度に従う。模試の結果や指導教員面談、受講態度（補講含）を参考にする。オリジナル問題の定期試験と合わせて 60 点以上を合格とする。なお、再試験はなく、その代わり 2 回の試験を実施し、そのうち 1 回合格を必須とする。									
【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		95	2				3		100 点
評価指	取り込む力・知識	95	2						97
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								

平成 26～28 年度入学者用

標	発表力								
	学修に取り組む姿勢						3		3
【授業日程と内容】									
回数	講義内容	授業の運営 方法	学修課題(予習・復習)	時間 (分)					
1	言語聴覚障害学総論 藤間紀明	講義など							
2	言語聴覚障害診断学 藤間紀明	講義など							
3	失語症 佐藤厚	講義など							
4	高次脳機能障害 佐藤厚	講義など							
5	言語発達障害 1 入山満美子	講義など							
6	言語発達障害 2 阿志賀大和	講義など							
7	音声障害 倉智雅子	講義など							
8	器質性構音障害 前新直志	講義など							
9	機能性構音障害 前新直志	講義など							
10	構音障害 (運動障害性) 藤間紀明	講義など							
11	嚙下障害 倉智雅子	講義など							
12	吃音 前新直志	講義など							
13	小児聴覚障害 大平芳則	講義など							
14	成人聴・視聴障害 高橋圭三	講義など							
15	補聴器・人工内耳 大平芳則	講義など							

※授業日・教室は随時学生ポータルサイトにて配信します。